

吹奏楽部

対象生徒：吹奏楽部生徒
指導教員：渡邊太一 小見山秀彦

地域連携実施協力者 姫の沢公園パートナーズ

取り組みの概要

依然として新型コロナウイルス感染防止のため思うように演奏活動が出来ていない。そんな中、近隣の公園から野外演奏のお話を頂いた。

取り組んだこと

令和3年10月10日(日)、姫の沢公園にて、野外演奏を実施した。曲目は、「Paradise Has NO BORDER」「ルパン三世のテーマ」「怪物」「群青」「小さな恋のうた」の5曲であった。また、同日、野球部による「親子キャッチボール教室」陸上競技部による「親子走り方教室」も実施した。



キャッチボールを楽しむ参加親子(上)と会場を盛り上げた吹奏楽コンサート

キャッチボールや吹奏楽コンサート 山祭りスポーツフェスタ 姫の沢公園

姫の沢公園パートナーズ川村政所長が運営する姫の沢公園スポーツ広場駐車場では、「親子キャッチボール教室」吹奏楽部による「吹奏楽コンサート」ヨガ教室「フルティッキング」ウオーク体験会の5つ、イベント秋の山祭りスポーツフェスタが実施された。市外から訪れた参加者たちが爽やかな秋空の下様々な運動を楽しんだ。

同イベントには市内外から重なり約の子どもや保護者らが参加し開催された内容は親子キャッチボール教室、「親子走り方教室」吹奏楽コンサート、「ヨガ教室」フルティッキングウオーク体験会の5つ、それぞれが教室で参加者たちは講師の指導のもとすがすがしい汗を流した。

親子キャッチボール教室では熱海高校野球部外から重なり約の子どもや保護者らが参加し開催された内容は親子キャッチボール教室、「親子走り方教室」吹奏楽コンサート、「ヨガ教室」フルティッキングウオーク体験会の5つ、それぞれが教室で参加者たちは講師の指導のもとすがすがしい汗を流した。

親子キャッチボール教室では熱海高校野球部外から重なり約の子どもや保護者らが参加し開催された内容は親子キャッチボール教室、「親子走り方教室」吹奏楽コンサート、「ヨガ教室」フルティッキングウオーク体験会の5つ、それぞれが教室で参加者たちは講師の指導のもとすがすがしい汗を流した。

親子キャッチボール教室では熱海高校野球部外から重なり約の子どもや保護者らが参加し開催された内容は親子キャッチボール教室、「親子走り方教室」吹奏楽コンサート、「ヨガ教室」フルティッキングウオーク体験会の5つ、それぞれが教室で参加者たちは講師の指導のもとすがすがしい汗を流した。

姫の沢公園
スポーツフェスタ
参加無料!! 10月10日(日) 2021年
先着予約制

高校球児から学ぶ! 親子キャッチボール教室
講師: 静岡県立熱海高等学校 野球部
野球経験がなくても大丈夫! キャッチボールの基礎から丁寧に親子一緒に楽しむことができます!
時間: 11:00~11:45
定員: 13名(小学生と保護者)
会場: 2Fコート広場 駐車場
料金は2人1組(小学生と保護者) 各回定員 5名

環境上競技部直伝! 親子走り方教室
講師: 静岡県立熱海高等学校 陸上競技部
正しい走り方を身につけて、走るスピードを上げよう!
時間: 11:00~11:45
定員: 13名(小学生と保護者)
会場: 2Fコート広場 駐車場
料金は2人1組(小学生と保護者) 各回定員 10名

ヨガ教室
講師: 日本ヨガやヨガ協会 代表 藤中由美子
ヨガのメリットがある方、必見! 体の状態やレベルに合わせて初心者の方、大歓迎!
時間: 10:00~10:45
定員: 15名(小学生と保護者)
会場: ビンテージセンター2階 (1Fが吹奏楽部)

吹奏楽コンサート
講師: 熱海高等学校 吹奏楽部
吹奏楽部員による演奏会!
天竺の曲で吹奏楽部員による演奏会!
時間: 11:00~11:30
定員: 15名(小学生と保護者)
会場: スポーツ広場 駐車場

ルパン三世のテーマ
講師: 熱海高等学校 吹奏楽部
吹奏楽部員による演奏会!
運動効果が高いと評判! 2本のボールを使って歩く全長エクササイズ!
時間: 11:00~12:00
定員: 10名
会場: ビンテージセンター入口

予約受付期間: 10月1日(金)~10月9日(土) 予約は必ず電話にて
指定管理者 姫の沢公園パートナーズ
TEL: 0557-83-5301 FAX: 0557-65-2974

取り組みの成果

- (1) 緊張感ある本番の確保
本番が少ない1年間だったので、外部での演奏機会が得られたのは、貴重であった。
- (2) 活動の宣伝
会場に多くのお客様が足を運んでくださっていたので、本校吹奏楽部の良い宣伝となった。

今後取り組むべきこと

コロナウイルスによる活動の制約は、まだまだ続きそうである。学校の Instagram が出来たので、著作権や肖像権の問題に十分配慮しつつ使用し、より地域に根差した活動を目指す。

ボランティア部

対象生徒：ボランティア部員
指導教員：永吉 優里

地域連携実施協力者
NPO法人しずおか共育ネット
認定NPO法人カタリバ

取り組みの概要

昨年7月に起こった熱海市での土砂災害により、多くの地域住民が避難生活を余儀なくされた。この土砂災害を受け、熱海市唯一の高校として、地域のために「何かできることはないか」、「役に立ちたい」という生徒からの声があがり、災害ボランティア活動に参加した。

災害ボランティア活動への参加は、地域連携実施協力者であるNPO法人しずおか共育ネット及び認定NPO法人カタリバを中心に災害ボランティア活動へ参加することとなった。

取り組んだこと

NPO法人しずおか共育ネット及び認定NPO法人カタリバと連携し、昨年7月に熱海市で起こった土砂災害の災害ボランティア活動を以下の通り行った。

I 事前指導

日時／場所 令和3年7月26日（月）／静岡県立熱海高等学校 国際教養教室
内 容 災害ボランティアを行うにあたっての心得

2 避難所でのボランティア活動

日時／場所 令和3年7月27日（火）～8月23日（月）／熱海金城館
内 容 避難所で生活をしている幼児～中学生を対象にレクリエーションを実施したり、学習支援を行ったりした



3 夏休み避難所ボランティア振り返りワークショップ

日時／場所 令和3年9月1日（水）／静岡県立熱海高等学校 国際教養教室
内 容 災害ボランティアで学んだことや今後のボランティア活動にどのように活かすかについてのグループワーク



4 あたみやげおつかいし隊への参加

日時／場所 令和3年11月27日(土)／東静岡駅
内 容 熱海市のお土産の販売及び募金活動



5 被災者とのふれあいボランティア活動

日時／場所 令和4年1月15日(土)／未来創造部 2階
内 容 7月に交流した被災した子どもたちとのふれあいボランティア活動

取り組みの成果

1 災害ボランティア活動への参加

<1年部員>

- ・災害にあった人たちのような声掛けをしたらよいのか悩みながらボランティアに参加したが、子どもたちが笑顔で接してくれてすごく嬉しかった。
- ・災害ボランティア活動を念頭に置きながら活動をすることができた。このような貴重な経験を、地域の力になることを学ぶことができたので、今後も地域に貢献できるようなボランティア活動をしていきたい。

<2年部員>

- ・子どもたちを笑顔にするために災害ボランティアへ参加できてよかった。また、一緒に遊んだり、勉強したりして楽しく過ごすことができてボランティアに参加してよかった。
- ・ボランティア活動をすることで災害にあった方たちを笑顔にすることができるので大事なことだと感じた。

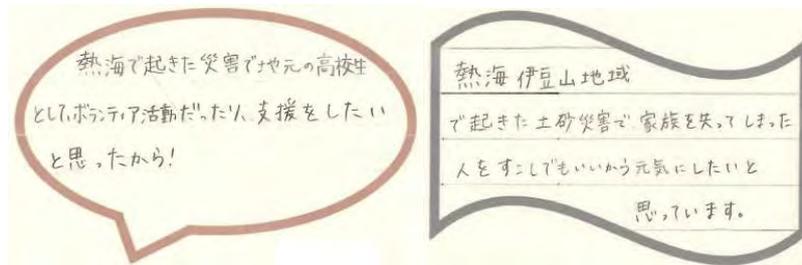
2 あたみやげおつかいし隊の活動への参加

<1年部員>

- ・ボランティア活動を通して、熱海の復興へ様々な人が協力してくれていることを学んだ。
- ・熱海のお土産を多くの人に販売することができて嬉しかった。地元の高校生として、熱海のおいしいものを説明することができてよかった。また、熱海・伊豆山地域で起きた災害の復興へ少しでも力になれば嬉しい。

<3年部員>

- ・多くの商品が売り切れるくらいお客様に買っていただいたのですごく嬉しかった。
- ・このようなボランティア活動の経験がなかったため緊張したが、熱海の商品を復興支援として販売することができてよかった。また、大学生と一緒に活動して、多くのことを学べた。



今後取り組むべきこと

昨年度と今年度の2年間は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で地域でのボランティア活動が思うように実施することができなかった。そのため、これまで実施していた福祉施設の行事ボランティアや学童ボランティアなどに参加する機会がなく、地域とのかかわりを深めることができなかった。

今後は、新しい生活様式の中で「どのようにボランティア活動をしていくのか」を考えながら地域で多くのボランティア活動に参加していきたい。

また、被災地支援に関するボランティア活動を通して学んだことを地域でのボランティア活動に活かしていきたい。

エイサー部

対象生徒：エイサー部部員
指導教員：森晴菜 小見山秀彦

地域連携実施協力者
あたま翔裕館様、ニューとみよし様

取り組みの概要

私たちエイサー部は結成 15 年目となり、3 年生 3 名、2 年生 2 名、1 年生 3 名の計 8 名で活動をした。平日は体操・体幹トレーニング・基本打ち・パート練習・声出し練習・通し練習などを行っている。休日は例年であれば演舞依頼をいただいた場所に赴いて演舞を披露し、地元に限らず県外にも足を運び、計 40 回を超える発表の場があるが、今年度は新型コロナウイルスの影響で演舞を披露する機会が少なかった。また、校内での活動も制限され、対策を十分にとったうえで部活動に励んだ。

演舞の指導については、上級生が下級生を指導したり、パートの枠を越えてお互いに教え合いをしたりと、生徒同士でコミュニケーションを取りながら技術向上を図っている。さらに、元気な声を出して盛り上げることや、笑顔で場を和ませるといった高校生の持っているエネルギーを見て下さる方に伝えることができるよう、練習内容も工夫をしている。

エイサーを踊る自分たちがまず楽しみ、さらに見て下さる方もみんなで楽しめるような演舞を披露できるよう、これからも練習に励んでいきたい。

取り組んだこと

- 2021. 07. 25 県高文連郷土芸能専門部合同発表会
- 2021. 10. 22 桃陵祭（文化祭）校内発表
- 2021. 11. 23 あたま翔裕館慰問
- 2021. 12. 14 高校生ホテル歓迎演舞
- 2021. 12. 18 静岡県高等学校文化連盟郷土芸能専門部第 26 回文化祭



取り組みの成果

(1) 演舞ができる喜びの再認識

数少ない演舞機会であったからこそ、改めて人前で演舞ができる喜びや、会場にいる全員で作品を作り上げることの楽しさを再認識できた。自然と生徒から笑顔が見られ、見ている方々へ本校生徒の熱い思いを届けることができた。

(2) 全員で創り上げる意識の向上

演舞ができないからこそ、基本的な動作の見直しをする機会が増えた。各パート動画を撮って、細かく動きを確認したり、プロジェクターで大きく映し出して全体像を客観的に確認したりすることで部員全員で演舞を完成させる意識を向上することができた。



今後取り組むべきこと

今後もコロナ禍で活動の制限が予想されるが、状況をみながら演舞依頼を積極的に受けていきたい。また、高校生ホテルのお客様から大きな反響があったことから、コースでの取り組みなどともコラボレーションしながら、エイサー部の活動を発信する機会を増やしていきたい。



キャリアカフェ

対象生徒：全校生徒
指導教員：進路課職員

地域連携実施協力者
熱海高校管内・県内の企業様

取り組みの概要

令和元年度から始まったこのキャリアカフェは、3年生が求人票の受付を控えた6月に、熱海市の商工会議所と連携し、生徒と社会人が仕事について語り合い、キャリア意識の向上を図る目的で実施している。コロナ禍で開催が心配されたが、例年通り企業の方々に来校いただき無事実施することができた。3年生のみならず、就職意識の高い下級生たちにとっても企業・社会を知る良い機会となった。

これを機に、進路先の選択肢としての幅を広げたり、進路の最終的な方向性を絞ったり、まだ進路希望がはっきり定まっていない生徒には様々な職種を知る良い場となっている。また、社会人との関わりが希薄な生徒達が社会人と話す機会を与えられることで、コミュニケーション力の向上や社交性を培う効果が得られている。

取り組んだこと

従来の進路ガイダンスのような堅苦しい雰囲気ではなく、「キャリアカフェ」という名前が示すように飲み物を片手に気軽に社会人の話を聞く機会を設け、社会人のやりがいや勤労観を自由な雰囲気の中で感じられるようにという趣旨のもと令和元年度より始まった「キャリアカフェ」であるが、今年も昨年同様コロナ禍の影響で、飲み物を提供しない形での開催となった。

令和2年度は、感染症予防措置のため、1回のみで開催であったが、令和3年度は企業様の御協力もあり、2回開催することができた。(以下参加企業)

第1回開催日：令和3年6月4日（金）

参加企業：株式会社 三ツ星工業

あいら伊豆農業協同組合

アイリスオーヤマ 株式会社

伊豆高原 ゆうゆうの里

いとうの杜



第2回開催日：令和3年6月18日（金）

参加企業：株式会社 ウェックス

株式会社 平山

株式会社 マジオネット熱海

株式会社 関電工

山田冷機工業 株式会社



取り組みの成果

昨年度も感じたことであるが、3年生を中心に、1・2年生も企業様の生の声を聞くことで進路意識が高まった。「働く」ということに関して漠然と持っていたイメージが、具体的に自分の適性や能力について改めて考えることができたようである。生徒からは、積極的に働くことへのやりがいや、大変なことなどを聞く姿が見られ、就職への高い意識が企業側へ伝わった。企業側からも、高校生に話をすることで、地元企業のメリットや、企業理念・仕事内容について伝える場になったようで、学校と地域との繋がりが更に深まったと感じられる。本年度は、キャリアカフェの成果として、昨年度に比べ大幅に地元企業への就職内定率が上昇した。また、多くの卒業生が企業担当として来校してくれたことに感謝したい。

写真（下）：卒業生が、各企業について説明をしている模様



今後取り組むべきこと

令和元年度より始めた「キャリアカフェ」であるが、生徒、企業共に好評であったため、来年度以降も継続して実施していきたい。今年度も、コロナ禍の影響で、飲食なしの開催となってしまったが、来年度こそは、湯茶を用意して和やかな雰囲気のもと開催したいと願っている。話を聞くにあたり、事前に企業について調べておくことは企業研究に非常に役立つため、前の段階から、その会社について調べ、質問を考えておく姿勢も継続して指導していきたい。その際に、生徒の方から、「この企業を呼んでほしい！」というような声が上がると、より主体的な活動になれば、さらに有意義な時間となるであろう。

地元企業ガイダンス

対象生徒：全校生徒
指導教員：進路課職員

地域連携実施協力者
熱海市商工会議所、地元企業様

取り組みの概要

昨年に続きコロナ禍の影響で、熱海高校管内（三島・伊東ハローワーク管内）求人数の減少が予想されたが59件から62件と微増した。しかし令和元年度は73件であったため、以前厳しい状況は続いている。そのような中、7月1日の求人票公開の日を迎え、気持ちも新たに3年生は自分の希望する職種についてより多くの情報を得たいと、7月21日に熱海市商工会議所主催の地元企業ガイダンスに多くの生徒が参加した。3年生にとっては緊張した空気の中、積極的に情報を集める良い機会となった。

取り組んだこと

求人票公開を受け、7月1日以前では質問できなかったことについても具体的に質問することができ、生徒達にとっては、非常に良い情報収集の場となった。3年生のみならず、1・2年生も参加することができ、興味のある企業についてより多くの知識を得ることができた。

【生徒からの質問例】

- ・どのような仕事ですか？
- ・仕事をしていて良い仕事だと感じるのはどんな時ですか？
- ・仕事について大変な点は何ですか？
- ・入社試験はどのような形で行われますか？
- ・面接で重視するポイントを教えてください。
- ・会社見学はできますか？
- ・入社できた場合に研修はありますか？
またそれはいつ頃ですか？
- ・ボーナスはありますか？
- ・住み込みはできますか？
- ・勤務条件について教えてください。（勤務時間、休日、シフト、残業、給料、昇給）
- ・家が少し離れていますが、車で通勤できますか？（通勤についての詳細）
- ・熱海高校のOB、OGはいらっしゃいますか？



【参加企業】

- ・ 山田冷機工業 株式会社
- ・ 株式会社 ウェックス
- ・ 有限会社 山口商店
- ・ 株式会社 平和エアテック
- ・ 株式会社 徳造丸
- ・ 株式会社 ミツ星工業
- ・ 株式会社 榎木設備
- ・ 株式会社 エヌティー倶楽部 味と湯の宿ニューとみよし
- ・ 株式会社 アシベ商事



取り組みの成果

就職する生徒の理由としては、家族の負担を減らしたい、安定した暮らしをしたいといった経済的な理由が最も多いが、中には自分の興味のある仕事でやりがいを感じることができる仕事に就きたいと希望する生徒も少なくない。本校では、地域連携に力を入れていることから、地元企業の情報をいち早く確実に生徒へ届けたいという思いで、本年度も地元企業ガイダンスを実施した。本年度の成果としては、昨年度に比べ、大幅に地元企業への就職率が上がったことである。就職希望生徒の内、約半数の生徒が管内（三島・熱海・伊東）への就職内定を決めた。コロナ禍の影響も無視できないが、多くの生徒が地元へ貢献したいと思ってくれていることを嬉しく思う。



今後取り組むべきこと

昨年度は、地元熱海に就職する生徒の数を増やすことが課題であったが、今年度は50%の生徒が地元企業に就職内定をいただいた。今後は就職後の離職率を減らし、より長く地元企業で働き続け、本当の意味で地元へ貢献できる人材を育成していくことが求められる。そのためにも、地元企業ガイダンスを継続して行い、一人でも多くの生徒に地元の企業を知ってもらおう努力をしていきたい。

インターンシップ・オープンキャンパス

対象生徒：2年生就職・進学希望者
指導教員：2年部職員

地域連携実施協力者
地域企業者様

取り組みの概要

2年生では、就職希望者はインターンシップ、進学希望者はオープンキャンパスへ参加した。今年度は新型コロナウイルスの影響に加え、熱海伊豆山土砂災害があり、説明会に参加することも含め、全員が参加することはできなかった。しかし、事前学習や社会人マナー指導も含め、働くことの厳しさや進学することの難しさを生徒自身が実感することができた。

2年生は、多くの生徒が1年時から自分の進路について考えてはいたが、自分が就きたいと考えている職業の具体的な業務内容や進学したいと考えている学校の特徴、主な就職先など知らない部分が多かった。そのため、今回の経験により生徒一人一人が真剣に自分の進路について向き合うきっかけとなった。

インターンシップ：参加者24人 不参加者6人

○主なインターンシップ先…あいら農業協同組合、介護老人保健施設いとうの杜、自衛隊熱海後楽園ホテル、ホテルラヴィエ川良、安田製菓株式会社 他

オープンキャンパス：参加者19人 不参加者13人

○主なオープンキャンパス先…日本大学短期大学部、小田原短期大学、HAL専門学校
横浜ビューティー&ブライダル専門学校
横浜リハビリテーション専門学校 他

取り組んだこと

- 5月 生徒へのガイダンス、実習先の希望調査
- 6月 実習先の決定及び調整、教員による実習先への受け入れ可否についての許可取り
インターンシップ実習先・オープンキャンパス参加先の事前調べ
- 7月 社会人マナー指導、自己紹介カードの作成
インターンシップ・オープンキャンパスの手引き読み合わせ
生徒による、実習先との電話による打ち合わせ
- 8月 インターンシップ本番
- 9月 お礼状指導、お礼状の送付、報告書作成、アンケート実施

取り組みの成果

(1) インターンシップに参加した生徒について

コミュニケーション能力の重要性、マナーの大切さ、働くことの厳しさを感じることができた。

生徒による、実習先との電話による打ち合わせは、正しい言葉遣いを心掛け、メモを取りながら聞き取るなど電話対応の実践的な場となった。また、実際にインターンシップを行う中で、挨拶や表情により自分の印象が変わることや、企業の方がお客様にどのような対応をしているのかを見ることができた。「働くこと」は単純でなく、多くの人々の協力があって成り立っていることを感じた生徒もいた。

(2) オープンキャンパスに参加した生徒について

実際に学校を見学しに行き、現段階での志望校が自分のやりたい分野であるかどうかを確認することができた。新型コロナウイルスの影響により、オンラインでの参加になってしまった生徒もいたが、生徒一人一人が自分自身の進路実現に向けて意識が高まった。また、事前調べを行ったことにより、進学先の視野が広がったという生徒の声もあった。

(3) 全体の成果について

多くの生徒が事前準備の段階から積極的に取り組むことができた。インターンシップ・オープンキャンパス参加後に行ったアンケートでは、「今回のオープンキャンパスでは、希望しているブライダルヘアメイクコース以外にも知ることができた。学生に直接話を聞き、結婚式実習などの熱意や取り組みの様子を聞くことができた。また、ドレスを着る機会もあり、進学したい気持ちが高まった。」「利用者の方と会話している時、緊張してなかなかうまく話せなかった。これからはもっと福祉の知識高め、コミュニケーション能力を高めたい。」「父が働いている職場に行き、家族を養うために働く父の姿を見て、かっこいいと思った。自分もこんな父親になりたいと思った。」などの前向きな意見が多く、非常に良い機会になったと感じた。「今回のインターンシップ・オープンキャンパスが、将来の自分の進路決定に役立つと思いますか。」という問いに対して、「役に立つ」と回答した生徒が8割を超えた。生徒自身の進路実現の大きな一歩となったと考える。



今後取り組むべきこと

今年度はインターンシップ・オープンキャンパスを通して、次年度以降に向けて行うことや検討、改善するところは2点あると考える。

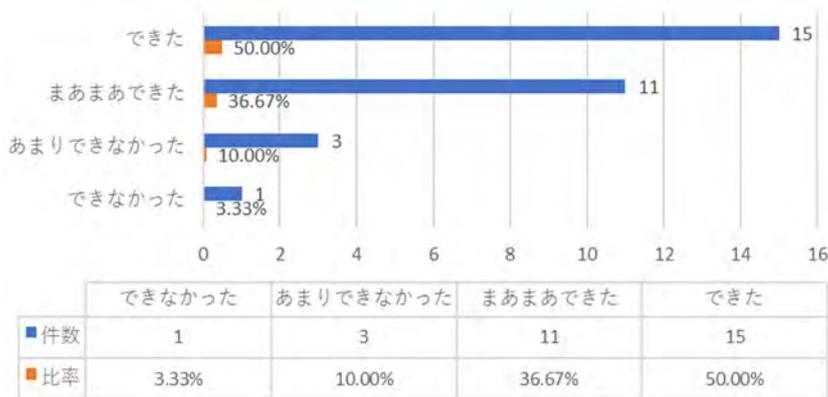
1つ目は、去年に引き続き、コミュニケーション能力が大切だと学んだ生徒が数多くいた。日頃から正しい言葉遣いを心掛け、コミュニケーション能力を高めるために「伝える力」「聴く力」「読み解く力」を指導していく必要があると考える。

2つ目は、社会人のマナーをより理解させるために、挨拶の大切さや身なりの重要性など基礎知識から再確認できる機会を増やしてしていく必要がある。また、「働く」ことを早い段階で意識させるために、進学希望者もインターンシップに参加し、職業体験を経て「働く」ことから逆算をし、進学意識を高めることもできるのではないかと感じた。地域の方々との関わりも増えるため、社会のマナーやコミュニケーション能力の向上にもつながると考える。

生徒による事後アンケート

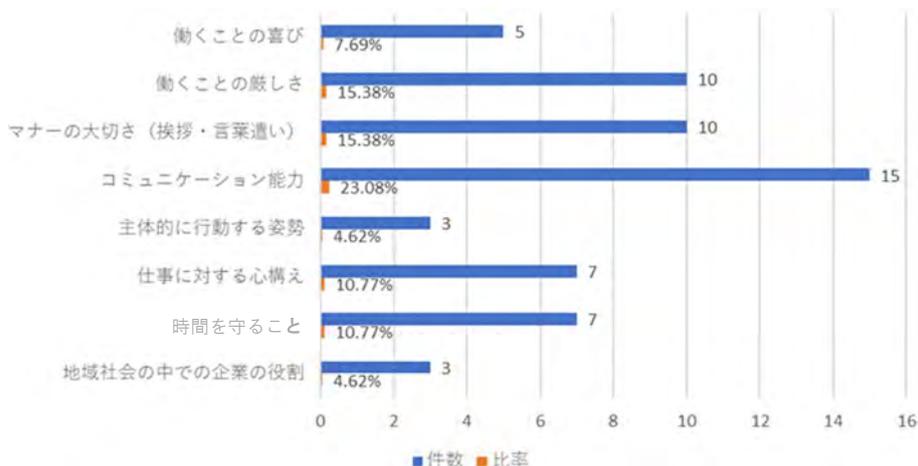
○インターンシップについて

設問2：インターンシップの事前準備では、目的意識を持って取り組むことができましたか。



設問5：インターンシップを通して、身についた・学んだと思うことは何ですか。

(複数選択可)



設問 7：今回のインターンシップが、将来の自分の進路決定に役立つと思いますか。



設問 8：インターンシップを終えての感想として、「働く」とはどういうことだと考えていますか。(複数選択可)

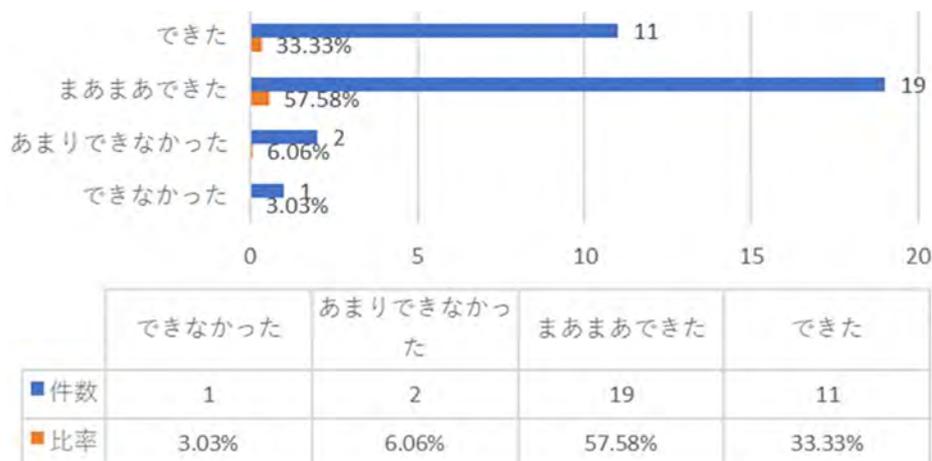


設問 11：将来社会に出るにあたり、自分に必要なことは何だと思いますか。(複数選択可)



○オープンキャンパスについて

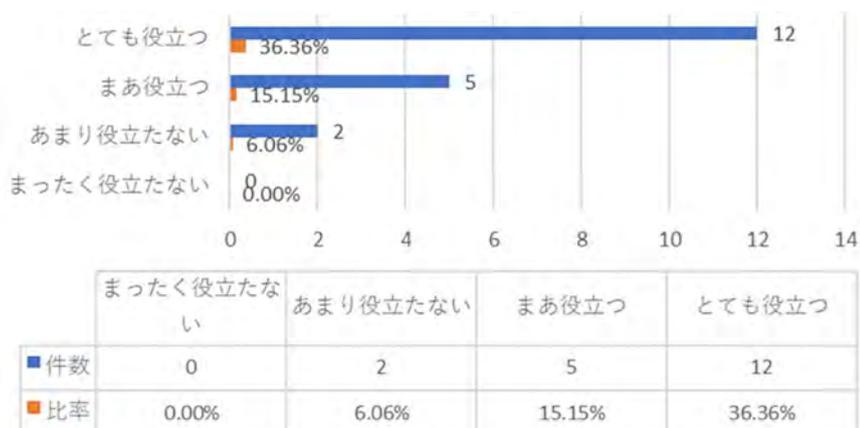
設問4：オープンキャンパスの事前準備では、目的意識を持って取り組むことができましたか。



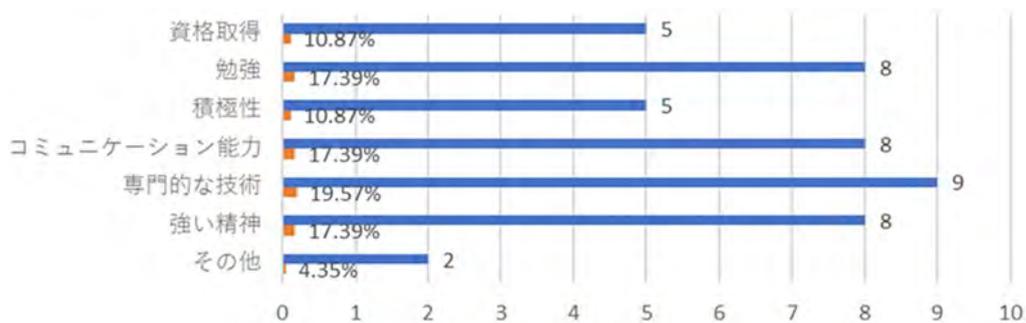
設問7：オープンキャンパスに参加して、気になったことや重視したことは何ですか。(複数選択可)



設問9：今回、オープンキャンパスの参加によって、将来の自分の進路決定に役立ちましたか。



設問 11：将来社会に出るにあたり、自分に必要なことは何だと思えますか。（複数選択可）



	その他	強い精神	専門的な技術	コミュニケーション能力	積極性	勉強	資格取得
■ 件数	2	8	9	8	5	8	5
■ 比率	4.35%	17.39%	19.57%	17.39%	10.87%	17.39%	10.87%

教科グループ

指導教員：教科グループ教員、総合的な探究の時間及びキャリアマネジメント研究会

取り組みの概要

新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン授業の実施、時代に即した生徒内規の改定、伊東地区の3校合併の新構想高校の誕生など、学校がおかれる教育現場もあらゆることに対応していかなければならない現状である。

また本校においては、少子化による地域の子供数の減少から学級減および教職員減になり、カリキュラムの再構築をしなければ学校運営が厳しい状況にもなった。ここ10年以上入学定員割れも続き、新教育課程の編成を機に地域から求められ、本校にて学びたいと思える魅力ある学校創りを行う。

具体的には、本校に入学したからこそできる取り組みや、本校に在籍しているからこそ体験実習できることを教科横断的に実施し、在校生徒に喜びを与え将来に希望の光を映し出せないだろうか考えたい。各教科が継続的に魅力ある取り組みとは何かを生徒の現状を理解し模索しつつ、短期的な計画ではなく、地域を巻き込み長期的な持続可能な形で実施する策を考える。

また、クラス運営に関する担任制度の変更およびクラス編成を行うことで、あらゆる問題に対応しやすく、生徒にとっては生活しやすい環境であり、教員にとっては働きやすい職場にしていきたい。

令和2年度には、各教科にて教科横断的な取り組みを授業において実施した。令和6年度に学校設定科目「キャリアマネジメント」を開設することで、教科横断的な取り組みで生じた問題点を打破することができると思う。

取り組んだこと

1 令和4年度 教育課程表の編成

(1) 総合的な探究の時間について

【現行】

- ① 総合的な探求の時間は、学年対応である。
- ② 学年色が強く毎年、学年で実施内容を検討する。
- ③ 単年度計画であり、持続的継続的な実施にならない。
- ④ 1年生「熱高ラボ」、2年生「熱海ラボ」の実施
- ⑤ 3年生は主に進路実現に向けた指導時間として実施

【新教育課程】(改善点)

1年次2単位 2年次2単位 計4単位

- ① 国語、社会、数学、理科、外国語、保健体育、福祉、商業(計8名)の教科で対応
- ② 1・2年生縦の繋がりで探求する

- ③ 現行の熱海ラボと熱高ラボの接続
- ④ 実施マニュアル作成

(2) 学校設定科目（3年選択科目）について

【現行】

- ① ライフスポーツ（ゴルフ） 体育科教員 2名対応
- ② フードデザイン 家庭・福祉教員 2名対応
- ③ 発展英語表現 I 英語科教員 1名対応
- ④ 子どもの発達と保育 家庭科教員 1名対応
- ⑤ 理科課題研究 理科教員 2名対応
- ⑥ 郷土研究（未開設）社会科教員 0名対応

※令和3年度から家庭科教員が減員となったため、令和4年度からフードデザイン、子どもの発達と保育は開設しない。

【新教育課程】（新設理由）

キャリアマネジメントを開設 2単位

- ① 義務教育、高等学校教育で培った専門的知識を礎に、具体的目標を定め、達成に向けて当事者意識を持ち、結果的に将来の人生設計及び生涯学習に結びつけていく科目（時間）とする。
- ② 国語、社会、数学、理科、外国語、保健体育、福祉、商業（計8名）の教員で対応する。教科横断的な取り組みを行う。
- ③ 推進体制の強化

毎年、具体的な目標（活動内容）を考えるのではなく、既存の連携企業や団体との授業を維持または、新規に産・学・官・民と連携を図り持続的継続的な授業の実施を確保する。

（補足説明）産：駅前商店街の代表、マルシェ主催者、地元宿泊施設社長、商工会

学：小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学

官：市役所（〇〇課）

民：市民〇〇センター、〇〇信用金庫、企業

金：資金（補助金含む）

【問題点】

担当教職員は人事異動もあり、来年度継続的に産・学・官・民との橋渡しができない可能性がある。

【提案】

継続的に熱海高校の授業が実施できるために、地域の人材にコーディネートおよび管理をしていただけないか。コミュニティスクール、評議員から選出案。

2 熱海高校版ダブル担任制

1クラスに担任が2人いることで、生徒はどちらか話しやすい教員に学習や進路、また悩み相談などを行うことができる。また、教員は2人が担任という同じ身分であるため、2人の教員が協力してクラス運営にあたることができる。出欠管理や指導要録作成などの事務処理においては、クラスを前半と後半に分け、分担して業務を行う。

3 ミックスホームルーム

本校は、1年次は共通科目を生徒全員が履修し、2年次になって類型ごとのクラス編成が行われていた。2年次と3年次は同じクラスで編成され、クラス替えは行わない。しかし近年、生徒同士の人間関係トラブルも多く、また生徒の希望通りに類型選択を行うとクラス人数に大きな差がでてしまう現状が見られた。

取り組みの成果

1 令和4年度 教育課程表の編成

(1) 総合的な探究の時間について

① 担当教員を学年教員から教科教員に変更する

令和4年 1年 総合探究2時間（教科対応）

2年 総合探究1時間（学年対応）

3年 総合探究1時間（学年対応）

※移行期間は、総合探究を学年5人で対応

令和5年 1年 総合探究2時間（教科対応）

2年 総合探究2時間（教科対応）

3年 総合探究1時間（学年対応）

※移行期間は、総合探究を学年11人で対応

令和6年 1年 総合探究2時間（教科対応）

2年 総合探究2時間（教科対応）

総合探究およびキャリアマネジメント教材

「探究×SDGs 地域の課題解決のコツ（発行 朝日新聞社）を採択



回	取り組み内容	連携企業等
1	熱海高校 学校概要（沿革）校歌 探究について	校内
2	SDGsの事例を参照しながら地域の課題を発見する1	校内・地域 講義 フィールドワーク
3	SDGsの事例を参照しながら地域の課題を発見する2	
4	SDGsの事例を参照しながら地域の課題を発見する3	
5	SDGsの事例を参照しながら地域の課題を発見する4	
6	CM連携（国際交流）	講師招請
7	SDGsの事例を参照しながら解決策のアイデアを考える1	校内・地域 講義 フィールドワーク
8	SDGsの事例を参照しながら解決策のアイデアを考える2	
9	SDGsの事例を参照しながら解決策のアイデアを考える3	
10	SDGsの事例を参照しながら解決策のアイデアを考える4	
11	CM連携（メディア）	講師招請
12	最適な解決策を選択する1	校内・地域 講義 フィールドワーク
13	最適な解決策を選択する2	
14	最適な解決策を選択する3	
15	最適な解決策を選択する4	

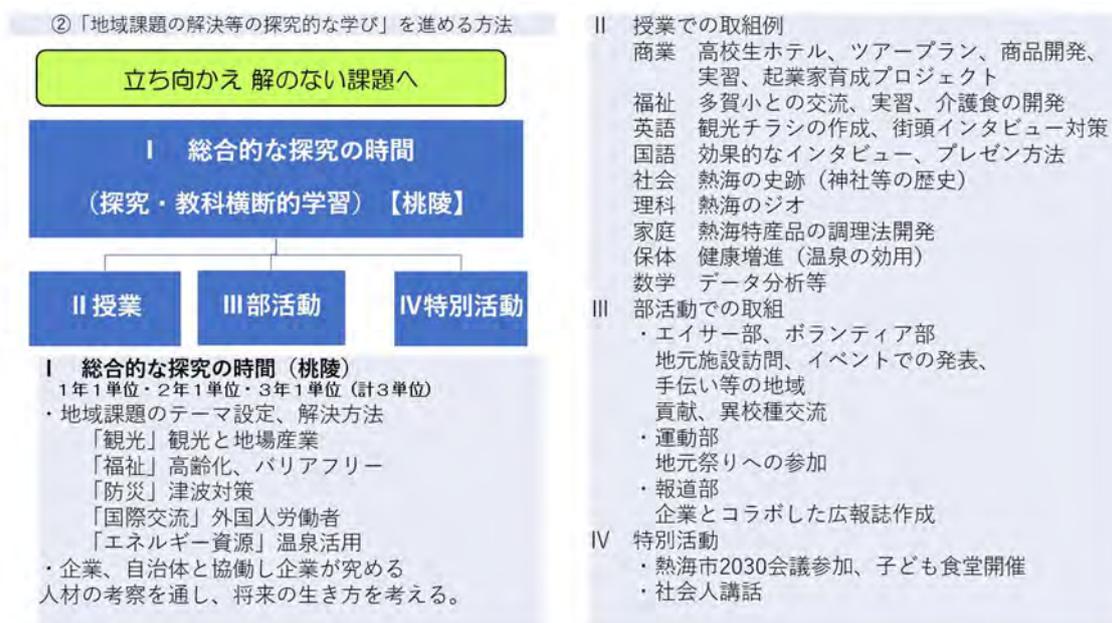
16	CM連携（自然保護）	講師招請
17	地域課題の解決策を発表する 1	校内・地域 講義 フィールドワーク
18	地域課題の解決策を発表する 2	
19	地域課題の解決策を発表する 3	
20	地域課題の解決策を発表する 4	
21	CM連携（生涯スポーツ）	講師招請
22	地域課題の解決策を実行する 1	校内・地域 講義 フィールドワーク
23	地域課題の解決策を実行する 2	
24	地域課題の解決策を実行する 3	
25	地域課題の解決策を実行する 4	
26	CM連携（リノベーション）	講師招請
27	探究×SDGsの学びを振り返る 1	校内・地域 講義 フィールドワーク
28	探究×SDGsの学びを振り返る 2	
29	探究×SDGsの学びを振り返る 3	
30	探究×SDGsの学びを振り返る 4	
31	CM連携（郷土料理：食）	講師招請
32	2年生探究発表会 参観	校内
33	CM選択（希望表明書作成）	校内
34	自己理解・地域理解振り返り	校内・GW
35	自己理解・地域理解振り返り	校内・GW

※ 講師招請に関わる場所は、前年度に予算を組み計画する
講義・フィールドワークに関する場所は、学期単位および毎週担当で検討する

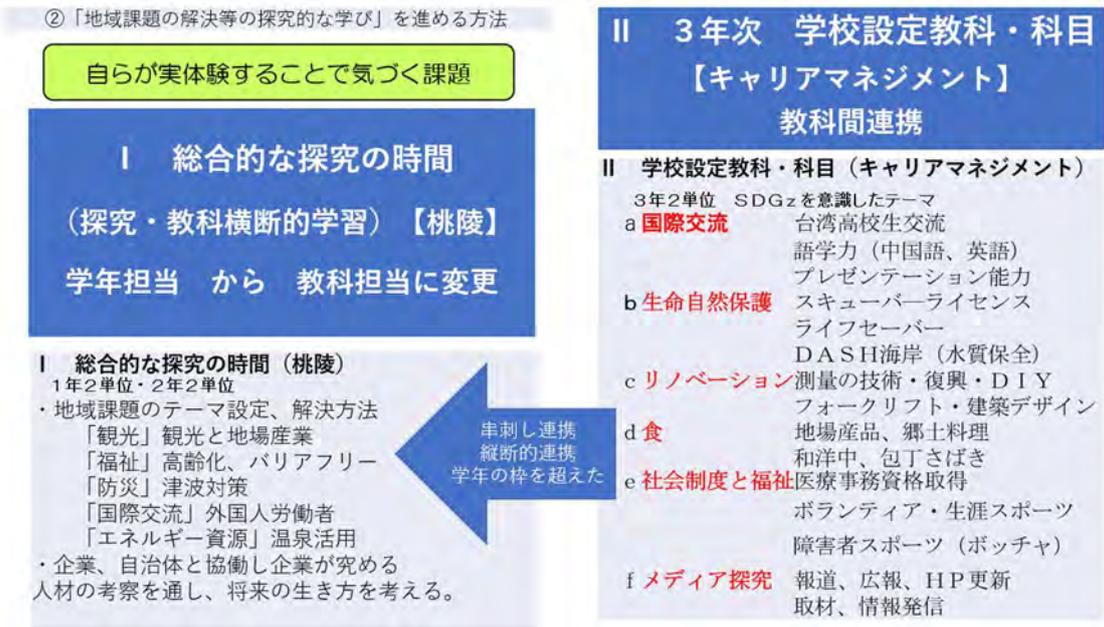
(2) 学校設定科目（3年選択科目）について

①各教科が各々地域連携をしている活動を学校設定科目教科で統合

【令和3年度まで】



【令和6年度 構想図】



【キャリアマネジメント：国際交流 (例)】



【研究会にて協議されたこと】

- 令和2年度において、教科横断的な取り組みを各教科各科目の単元において実施した。教科横断的な取り組みをする場合の問題点が上がった。問題点は、同授業時間に2科目を同時に実施するか、同時期に関連のある単元を行っていないなければならない。また、生徒にとって教科横断的に理解させること目的にするため、教科横断的授業を行う対象を同一の生徒にしなければならない。つまり、1年生に学習した内容を2年生で別の教科で関連付けて理解させることにもなる。その場合、関連する学習内容の時間経過が長いと生徒はすでに忘れていている可能性もあり、あまり意味をなさない。
- 教育課程を編成にあたり、令和2年度案では、教科に学校設定教科の開設もしくは、探究活動を行える科目の開設を考えた。しかし、探究という科目を開設できない教科が

あり、また教科の定められた科目を開設する場合、学習指導要領に定められた単元にあてはめなければいけない。柔軟な教科横断的な取り組みはできない。

- 3 令和6年度に学校設定教科科目として「キャリアマネジメント」を開設する。開設にあたり、令和4年度からの総合的な探究の時間に「キャリアマネジメント」に最終的につながるように授業構成をする。
- 4 「キャリアマネジメント」の内容は、担当する教員により毎年内容を固定しない。しかし、毎年新規に連携先を選出するのではなく、産学官民に関連する組織・団体と連携を図ることにする。
- 5 「キャリアマネジメント」のゴールは、例えば自然保護分野でスキューバダイビングの免許を取るように、技術習得が最終ゴールではない。つまり免許を取り、その免許を生かしながら自己の興味関心を深め、将来に続く探究を行うことが目標である。あくまでも、「キャリアマネジメント」で学ぶコース選択は、継続的探究心を育むためのスタートを示し、各コースのテーマを取り組む中で、将来の自己実現に向けて探究させるものである。
- 6 生徒だけではなく、教員も興味関心を抱き、教員のスキルアップにもつなげたい。

2 熱海高校版ダブル担任制

ダブル担任制を実施し、2年目が終了した。生徒においては、ダブル担任制の評価は高い。しかし、教員においては、40人の生徒を1人で見ることにより担任色を出したいという思いや、2人教員がいることで譲り合いや甘えがでてしまうという意見も見られた。地域制や学校の特質を考え、生徒及び教員にとって最善の道を継続的に検討する。

3 ミックスホームルーム

ミックスホームルームを実施し、1年目が終了した。福祉類型とビジネス類型の実習時に特別時間割に変更する必要があった。また、ミックスホームルームにより通常時の時間割変更も困難になる。しかし、生徒にとっては来年度もクラス替えになるため新鮮な新たな気持ちで学校生活を送ることができる。教員にとっては、2、3年次継続クラス編成の方が進路指導を考えると良い（担任が継続する場合）。ダブル担任制との関連も影響する。本校にとって類型ごとが良いのか、ミックスホームルームが良いのか継続的な検証が必要である。

今後取り組むべきこと

総合的な探究の時間からキャリアマネジメントへの接続は、3年間を見通したカリキュラムマネジメントが鍵となる。生徒の自発的探究心と教員の探究心が合致した取り組みを、1年次の総合的な探究の時間から模索し、教員間の研究協議を重ねることが求められる。今年度は6人の研究会でキャリアマネジメント開設に向け検討を行ったが、全教員で令和6年までに教科横断的に専門性を活かしつつ本校の魅力として創りあげていく。クラス編成に関しても、3年間を一区切りとして検証し、本校の生徒及び教員両者にとって、穏やかでより良い学校生活を過ごすことができ、生徒の進路実現にも最良な体制を考えたい。

評価開発グループ

担当教員：評価開発グループ教員

取り組みの概要

本事業の校内グループの1つである「評価開発グループ」が、今年1年どのような取り組みを行ったのかをまとめる。昨年度「評価開発グループ」では、本事業の目指すべき生徒像の柱である「探究力」「自発性」「協調性」の能力を評価する評価指標（ルーブリック）を、教育活動の中で実際に運用した。今年度は、熱校ラボ・熱海ラボにおいて生徒の自己評価（事前・事後）に活用し、得られた結果を昨年度のものと比較し、来年度から始まる総合的な探究活動とその評価のあり方について検証した。

取り組んだこと

① 熱校ラボ・熱海ラボにおいて生徒の自己評価（事前・事後）にルーブリックを活用する

（1）方法

昨年度改訂した自己評価表（アンケート）を、今年度も熱校ラボ・熱海ラボにおいて活用し、5月（事前）と2月（事後）に実施した。事後アンケートはp.4の通りである。アンケート項目は、生徒が答えやすいようルーブリックの各項目を具体例で示してあり、本探究活動を含む本校の教育活動において身につけさせたい「探究力」「自発性」「協調性」それぞれに関する9つの問いと、自己肯定感や地域資源の活用に関する4つの問い、計31問から構成される。事後アンケートにおいては、「今年度自分が成長したと感じられる力」について、「探究力」「自発性」「協調性」の中から1つ選ぶという項目を追加した。事後アンケートを実施する際には、5月に行った事前アンケートの結果も配布し、比較しながら記入できるようにした。

この自己評価表を行った目的は、身に付けてほしいと考えている資質・能力を生徒に示し、それらについて活動の前後の振り返りを通じて自らの変化について意識する機会を設けるということである。この自己評価表の結果については、10月の事前アンケートと2月の事後アンケートの間で、必ずしも資質・能力の成長を期待するものではない。自分を見つめ直したり地域の課題解決学習を行ったりする中で、事前アンケートより自己評価が下がることもあり得るという点について、生徒に説明した上で事後アンケートを実施した。

（2）今年度の自己評価表（事前・事後）の結果（p.5）

全体の傾向として、自己評価表の各項目は、その資質・能力の活用レベルが低い段階（C）から高い段階（A）まで分かれている。そのため、事前・事後アンケートのどちらにおいても、活用レベルが低い段階ほど「あてはまる」割合が高く、活用レベルが高い段階ほど「あてはまらない」割合が高くなっている。また、「協調性」は、事前・事後どちらでも活用レ

ベルに関係なく、高い傾向となっている。

個別の質問について見てみると、「探究力」は項目 6, 9、「自発性」は、項目 11, 13, 16 において、「あてはまる」「ややあてはまる」を合計した割合が 10%以上上がるという顕著な変化が認められ、この点においてはそれぞれの資質が高まったと考えられる。「探究力」の項目 6, 9 はいずれも高校卒業後の進路に関わる質問であり、熱校ラボ・熱海ラボによる影響以外に、高校生活全体や進路行事での経験によって、進路に積極的に取り組むようになっていく点も要因として考えられる。「自発性」の項目 11, 13 は地域の問題、項目 16 は問題に対する主体的な行動に関する質問であり、探究活動の中で地域が抱える問題を認識し、解決に向けて取り組む経験が大きく影響したと考えられる。

また、追加した質問は、どの項目でもあてはまる傾向が上昇した。そのうち項目 28, 31 では、「あてはまる」「ややあてはまる」を合計した割合が 10%以上上がった。これについても、地域を分析し、解決する方法を探りながら調査を行い、情報を整理して発表するという探究活動の成果として、「地域の魅力を語ること」や「社会を変えられる力」について、生徒の中で自信がついたように思われる。

(3) 昨年度との結果比較

昨年度の結果と比較してみると、類似点と相違点が発見された。類似点としては、資質・能力の活用レベルが低い段階ほど「あてはまる」割合が高く、活用レベルが高い段階ほど「あてはまらない」割合が高いという全体の傾向である。異なる点としては、昨年度はどの質問項目でも事後には「あてはまる」割合が高くなっていたのに対して、今年度は上述のとおり、特定の項目の割合が著しく上昇していた。また、事後アンケートにおいて成長した力として、昨年度は「協調性」を挙げた生徒が多かったのに対して、今年度は「協調性」に加えて「自発性」を回答した生徒も多く見られた。

この2つの相違点の要因として、昨年度との環境的な変化が挙げられる。昨年度はコロナ渦の中、1学期途中まで緊急事態宣言による長期の休校期間があり、校外でのフィールドワークを行うことができなかった。さらに、事前のアンケートを10月に実施し、班員との短い調査活動に対して自己評価を行ったため、友人と協力した印象が強く、「自発性」を発揮しながら深く「探究」することが困難であったことが大きな要因として考えられる。

② 来年度の総合的な探究活動に向けて評価のあり方

今年度の校内地域連携推進委員会やコンソーシアム会議において、ご指摘を踏まえて、総合的な探究の活動での評価について考察する。論点として、評価を用いて何をするのかという評価の目的である。つまり、評価のための評価ではなく、生徒がその評価を用いて次はどうつなげるかという視点である。例えば、自己評価を通じて自らの学びの方向性を認識したり調整したりする。教員など他者からの評価は、生徒は自らの成長や変化を感じるきっかけとなる上、進学や就職時には調査書や履歴書に成功体験として載せることがあり得る。また、地域の方からの評価については、一部の生徒にとって卒業後に地域で働くキャリアを選択した場合、大きな意味を持つ。

今年度の自己評価の結果から総合的に判断すると、探究活動を通じて、多くの生徒が自分の将来に向けて、地域に関心を持ち、友人と協力しながら自発的に課題に取り組み、自らの

成長や変化を感じられたと言える。その途中過程で、客観的なデータとして残ってはいないが、各学年の教員や外部講師の先生方からのご指導やフィードバック、励ましの言葉なども、大いに影響を与えたと予想される。

来年度の入学生から始まる総合的な探究の活動では、これまでより活動や調査の範囲が物理的にも質的にもさらに広がり、地域の方や外部指導者と関わる機会が増えるため、既に商業科で実施しているように、外部の方々にも生徒の評価を依頼する必要がある。その分野で働く専門家の目線での評価をしてもらうことで、生徒のやりがいや成長の実感にさらにつながると思われる。このように、観察、制作物、ポートフォリオ、発表、自己評価、連携・協力する外部の方々からの評価など多面的な評価を実践できるように校内の調整を進めたい。そして、結果として、生徒が成長を実感し、地域や進路についての理解が深まり、次の学びに向かう後押しになるような総合的な探究活動が展開されることを期待する。

取り組みの成果

- ① 熱校ラボ、熱海ラボにおいて、生徒に身に付けてほしいと考えている力を具体的に示し、それらについて、探究活動を通じて、部分的にはあるが、「探究力」「自発性」の成長が見られた。昨年度よりも、より充実した調査を実施できたおかげで、「地域の魅力を語ること」や「社会を変えられる力」についても、自信をつけた生徒が多く見られた。
- ② 生徒がその評価を用いて次にどうつなげるかという点で、発表や成果物、自己評価以外に外部の第三者評価など、多面的な評価、そして、学校生活の充実や成功体験、さらに学ぶ気持ちを涵養するような、生徒自身に還元される評価を念頭に置いて校内で調整していきたい。

今後取り組むべきこと

- ・現在のルーブリックを基にして、総合的な探究活動の評価項目（生徒向け、教員向け、外部評価者向け）を検討、完成する。来年度、それを運用しながら、生徒に定期的にフィードバックを行う。
- ・3年次の進学、就職の面接試験に備えて、2年次が終わるまでには、「探究力」「自発性」「協調性」の観点で自身の成長した点を根拠（エピソード）を元にアウトプット（話す/書く）をさせたい。
- ・現在用いているルーブリックを、地域や企業が求めている人物像と照らし合わせながら、必要があればブラッシュアップしていく。

熱高ラボ・熱海ラボ「自己評価（事後）」

HRNO () 名前 ()

熱高ラボ・熱海ラボでは、様々な活動を通して「探究力」「自発性」「協調性」の育成を目指しています。その三つの力について、現在の自分がどのような状態なのか、下のアンケートに答える形で自己評価をしてみましょう。

熱高ラボ・熱海ラボを実施した前後で、絶対に成長していなければならぬ、ということはありません。自分を見つめ直した結果、実施前よりも自己評価が下がることがあります。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	
探究力 C	1：現在の自分の学習面について、何が得意で何が苦手かわかっている。	4	3	2	1
	2：現在の自分の私生活や部活動において、こうなりたいたいという目標がある。	4	3	2	1
	3：将来の夢や高校卒業後の進路が定まっている。	4	3	2	1
	4：現在の自分の学習面の改善点について、どのようにしたら向上するか方法がわかっている。	4	3	2	1
探究力 B	5：現在の自分の私生活や部活動において、どのようにしたら向上するか方法がわかっている。	4	3	2	1
	6：将来の夢や高校卒業後の進路において、どのようにしたらその目標に近づけるのか方法がわかっている。	4	3	2	1
	7：学習面や部活動等でわからないことがあった時、友達や先生にすぐに聞くことができる。	4	3	2	1
探究力 A	8：文庫やインターネットで調べた一つの情報だけでなく、様々なメディアやツールからの情報を使って多角的に判断することができる。	4	3	2	1
	9：将来の夢や高校卒業後の進路に向けて、計画を立てて実際に行動している。	4	3	2	1
自発性 C	10：世の中（国内・国外）で、現在どのようなことが問題になっているのかを知っている。	4	3	2	1
	11：自分の住んでいる地域で、現在どのようなことが問題になっているのかを知っている。	4	3	2	1
	12：町の図書館の利用方法や、パソコン・スマホでのインターネット検索、辞書などの使用方法について理解している。	4	3	2	1

自発性 B	13：世の中や地域にある問題が、自分自身にとってどのような関係があるのかを理解している。	4	3	2	1
	14：直面した問題や設定した課題について、多様な情報の中から必要なものを選び、適切に利用できる。	4	3	2	1
	15：直面した問題や設定した課題について、解決につながるようなアイデアを出すことができる。	4	3	2	1
自発性 A	16：直面した問題や設定した課題について、解決につながるようなアイデアや意見を積極的に出し、行動することができる。	4	3	2	1
	17：一般的な解決策やアイデアにとらわれず、より良いものを自分たちの手で作り出そうという意識がある。	4	3	2	1
	18：目標達成や問題解決を進めるにあたって、大きな困難に出会った時、もあきらめずに挑戦し続けることができる。	4	3	2	1
協調性 C	19：社会には、一人だけでは解決できない問題があることを知っている。	4	3	2	1
	20：他人の意見を聞くことで、自分の視野が広がるような経験をしたことがある。	4	3	2	1
	21：一人では解決できない問題に対して、親しい友人に協力をお願いできる。	4	3	2	1
協調性 B	22：一人では解決できない問題に対して、友人に協力を依頼し、お互いに協力しながら活動することができる。	4	3	2	1
	23：友人と協力し合うことで、一人では解決できなかった問題や課題を解決した結果、自分のためにも友人のためにもなった経験がある。	4	3	2	1
	24：自分と親しい友人だけでなく、他の同級生や先輩との関係も大切にすることができる。	4	3	2	1
協調性 A	25：必要に応じて、初対面の人や年齢・立場が異なる大人とも会話をすることができる。	4	3	2	1
	26：自分と考えが異なる人の意見も受け入れることができる。	4	3	2	1
	27：直面している問題や設定した課題に応じて、友人だけでなく様々な人たちとも協力体制をつくることができる。	4	3	2	1
	28：自分の住む地域の魅力について、他の人に語るができる。	4	3	2	1
	29：自分の住む地域に、自分の将来のことが実現したいことについて相談に乗ってくれる人・支えてくれるような人がいる。	4	3	2	1
	30：自分には何か良いところがあると思う。	4	3	2	1
	31：自分には社会（身近なコミュニティ、地域、日本、世界等）を変えられるような力があると思う。	4	3	2	1

最後に、三つの中から一つ選んで○をつけてください。

・今年度、自分が成長したと思う力 (探究力) / 自発性 / 協調性

校内地域連携推進委員会の取組み

概要

今年度本校で開かれた「校内地域連携推進委員会」の活動内容を紹介していく。昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響による制限がある中での開催となり、開催回数も限られる形となったが、今年度は文部科学省指定の事業も3年目ということもあり、これまでの取組みのまとめを行うことを主眼にしつつ、コロナ禍での新たな取組みも実施しているように計画・協議を行った。

● 6月21日（月） 第1回校内地域連携推進委員会（CASP会議）

6月21日に文科省指定委託事業第1回校内連携推進委員会を開催した。昨年度同様、委員は静岡文化芸術大学文化政策学科准教授船戸修一さん、地域協働学習実施支援員の水野綾子さんであり、委員の方々とともに“地域の課題に立ち向かい、地域のために貢献できる人材”の育成を目指し、協議した。第1回は、昨年度の取組みの経過と今年度の計画についての確認となった。

- ・総合的な探求の時間：熱高ラボ・熱海ラボは今年度の予定や計画の確認
- ・教科グループ：令和4年度入学生からの総合的な探求の時間の構想
- ・商業科：レモンの木・高校生ホテル・起業家育成プロジェクトの計画
- ・福祉類型・社会資源マップ作製の計画
- ・評価開発グループ：昨年度の取組みの概要と今年度は評価のルーブリックの運用の計画

● 10月1日（金） 第2回校内地域連携推進委員会（CASP会議）

10月1日に文科省指定委託事業第2回校内連携推進委員会を開催した。

- ・総合的な探求の時間：熱高ラボではテーマ決定と今後の計画、熱海ラボでは今年度の進捗状況の確認、今後の具体的な取組みについての協議
- ・教科グループ：次年度以降の総合的な探求の時間の計画、令和6年度からのキャリアマネジメントのテーマ設定や内容の検討などが今後の課題として挙げられ、探求的な学びを進めていくためにはどのように授業を展開していくのが良いかということの協議
- ・商業科：レモンの木・高校生ホテル起業家育成プロジェクトの進捗状況
- ・福祉類型：メディシェフの取組みについて
- ・評価開発グループ：多角的な評価の方法についての検討

● 11月15日（月） 第3回校内地域連携推進委員会（CASP会議）

11月15日に文科省指定委託事業第3回校内連携推進委員会を開催した。

- ・総合的な探求の時間：熱高ラボでは12月のフィールドワークの計画、熱海ラボでは進捗状況の確認
- ・教科グループ：次年度以降の総合的な探求の時間の計画、令和6年度からのキャリアマネジメントのテーマ設定や内容の検討、授業展開の方法についての協議
- ・商業科：11月のAHAプロジェクト（ツアー）や12月の高校生ホテルの計画、起業家育成プロジェクトの進捗状況、また、次世代観光・地域交通プラットフォーム協議会事業（ジョルダン）との連携についての報告
- ・福祉類型：メディシェフの取り組みと商業科やジョルダンとの連携についての報告
- ・評価開発グループ：前回の協議事項に加えて、評価を行う際の主観や客観評価のバランスをどのようにしていくかの検討・協議

● 11月18日（木） 第1回運営指導委員会

11月18日に第1回運営指導委員会を開催した。運営指導委員の先生方や高校教育課の先生方を招き、事業概要の説明や取り組みへの助言をいただいた。

- ・総合的な探求の時間：熱高ラボでは12月のフィールドワークの計画、熱海ラボでは進捗状況の確認
- ・教科グループ：次年度以降の総合的な探求の時間の計画、令和6年度からのキャリアマネジメントのテーマ設定や内容の検討、授業展開の方法についての協議
- ・商業科：11月のAHAプロジェクト（ツアー）や12月の高校生ホテルの計画、起業家育成プロジェクトの進捗状況、また、次世代観光・地域交通プラットフォーム協議会事業（ジョルダン）との連携についての報告
- ・福祉類型：メディシェフの取り組みと商業科やジョルダンとの連携についての報告
- ・評価開発グループ：前回の協議事項に加えて、評価を行う際の主観や客観評価のバランスをどのようにしていくかの検討・協議
- ・協議の中でご指摘いただいたこと：
 - ・実績が形になりはじめているが、次のステップへ行くにはどのようなことを行っていくかということを検討する必要がある。
 - ・（熱高ラボ）教員の導き方がよく、生徒の自主性を重んじている。テーマの目の付け所は良いため、次の段階としては、地域の人（どういう人たち）が何を求めているのかを知ることも必要である。
 - ・ある所で学習したことを他の所で実践することが難しい現状があるのではないか。具体的な働きかけをもってしていくことや、生徒がどうやって課題に立ち向かおうとしているかを把握してアプローチすることが重要である。

など

● **12月17日（金） 第1回コンソーシアム連携会議**

12月17日に第1回コンソーシアム連携会議を開催した。ここでは、校内のCASP委員の先生方だけではなく、教育委員会高校教育課、熱海市役所、伊東法人会、多賀小学校、多賀中学校、熱海商工会議所、伊豆半島ジオパーク（敬称略）と協働機関の代表の方々にお越しいただき、今年度の事業概要や今後の計画について協議をした。11月の運営指導委員会につづき、各グループからの活動の進捗状況と今後の取り組みの概要について説明した。

● **1月18日（火） 第4回校内地域連携推進委員会（CASP会議）**

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止

● **1月20日（木） 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット
（オンライン会議での開催）**

1月20日に文部科学省主催の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミットが開催され、オンラインで参加した。3年目ということもあり、これまでの取り組みの発表を行うとともに、全国の多くの学校の取り組み状況など情報交換が行われた。

● **2月9日（水） 第2回運営指導委員会（オンライン会議での開催）**

2月9日に第2回運営指導委員会が開催された。今回はオンラインでの開催となり、事業概要の説明や今年度の取り組み内容、今後の活動について報告し、協議した。

・協議の中でご指摘いただいたこと：

- ・生徒自身が様々なことをマネジメントできるように（自分でうごくことができるように）していけるよう導くことが大事。
- ・一つの課題で産学官民金をつなぐコーディネーターが必要。しかし、通常業務に加えてコーディネーター役を教員がやるのは大変であること、それぞれの教員が多くの人とコンタクトをとると混乱するため、一本化できればした方が良いのでは（地域の人をお願いしたほうがいいのでは）。
- ・コーディネーター（探し）に困っている、ということを地域や市など各団体に呼びかけてみる。高校生を企業の活動に参加させている地域もあるため、企業との連携もさらに必要である。

など

令和3年度 静岡県立熱海高等学校 研究開発報告

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」

日時 2022年2月22日（月） Web公開

【報告書 執筆スタッフ】

熱海高等学校教員等

【編集スタッフ】

平沢圭子

2022年2月28日発行
